

生活保護を利用しているみなさん！
生活保護基準引き下げにガマンしないで、
厚生労働省に意見を届ける審査請求をやってみませんか！

道民のみなさん！

生活保護を利用しているみなさん！

生活保護基準の引き下げが、遂に8月1日から実施されることになりました。きわめて遺憾なことです。

生活保護を利用している人は、全国で157万8628世帯・216万1053人、全道で12万2129世帯・17万3627人(2013年3月)に達していますが、その96%の世帯に引き下げの影響が出るというものです(3年間)の引き下げ効果額670億円。2013年の効果額220億円)。

「2万円近く減らされるが、どうしてくらして行けるのか、途方にくれています。」との4人世帯の利用者の嘆きが聞こえてきます。本当にむごい仕打ちではないでしょうか。

また、今回は、老齢加算などの引き下げと違って、保護基準本体の引き下げなので、税制、社会保障・福祉制度全般、人口にして全国約8千万人程度に影響が及ぶものです。国民の暮らし全体に直撃することになるものです。これで本当に良いのでしょうか。

道民の皆さん！

生活保護を利用している皆さん！

今回の保護基準の引き下げに関しては、何人もの研究者から疑義が出されております。

—なぜ、今まで全勤労世帯の平均所得との比較で、保護基準を決めていたのに、今回、最も所得の低い1割の人達と比較して、保護基準を引き下げたのか —なぜ、前回の老齢加算を廃止した2006年の物価との比較ではなく、2008年という特殊な狂乱物価の年と比較して、保護基準を引き下げたのか

—なぜ、生活保護利用者がほとんど利用しない、パソコンなどの物価が大幅に下がっていることを理由にして、保護基準を引き下げるのか

—等々です。

しかし、政府・厚生労働省は、こうした疑義にまともに応えようとすることなく、保護基準の引き下げを強行しているのです。許せることではありません。国民の力を結集して、中止させようではありませんか。

道民の皆さん！

生活保護利用者のみなさん！

私たちは、政府・厚生労働省のこうしたやり方を正すために、国民に与えられている「審査請求」の権利を行使しようと決意しました。9月20日(金)に全道一斉に審査請求書を提出します。札幌近郊の方々は、午後1時に、自治労会館にお集まり下さい。ご一緒に大きな運動で、政府・厚生労働省に意見を言おうではありませんか。

2013年7月1日

呼びかけ人

生活保護を良くする会(準)共同代表

大橋晃(北海道社会保障推進協議会会長 医師)

木下武徳(北星学園大学准教授)

肘井博行(雇用・くらし・SOSネットワーク北海道代表 弁護士)

以上